

## 塩野谷祐一名誉教授主要著作目録

### I 著書

- 『福祉経済の理論』日本経済新聞社, 1973年.  
『現代の物価』日本経済新聞社, 1973年, 増補版, 1977年.  
『価値理念の構造—効用対権利』東洋経済新報社, 1984年.  
『シュンペーター的思考—総合的社会科学の構想』東洋経済新報社, 1995年.  
*Schumpeter and the Idea of Social Science : A Metatheoretical Study*, Cambridge: Cambridge University Press, 1997.

### II 編著・共著

- 『経済成長と産業構造』(山田雄三・今井賢一と共編)春秋社, 1965年.  
『財政支出』(長期経済統計第7巻)(江見康一と共著)東洋経済新報社, 1966年.  
『物価』(長期経済統計第8巻)(大川一司他と共著)東洋経済新報社, 1967年.  
『日本経済論—経済成長100年の分析』(江見康一と共編)有斐閣, 1973年.  
『経済体制論・第III巻・現代資本主義』(編著)東洋経済新報社, 1978年.  
『昭和財政史—終戦から講和まで』第10巻(国庫制度・国庫収支・物価・国家公務員給与・預金部資金・資金運用部資金), 大蔵省財政史室編(鈴木武雄他と共著), 東洋経済新報社, 1980年.  
『国立大学ルネサンス—生まれ変わる「知」の拠点』1・2(有馬朗人・太田時男と共編)同文書院, 1993年.  
*The Good and the Economical*, ed. with P. Koslowski, Berlin: Springer-Verlag, 1993.  
*Innovation in Technology, Industries, and Institutions*, ed. with M. Perlman,

Ann Arbor : University of Michigan Press, 1994.

*Schumpeter in the History of Ideas*, ed. with M. Perlman, Ann Arbor : University of Michigan Press, 1994.

### III 翻訳書

C. シュルツ『国民所得分析』東洋経済新報社, 1965年.

S. クズネツ『近代経済成長の分析』(上・下) 東洋経済新報社, 1968年.

J. A. シュムペーター『経済発展の理論』(上・下) (中山伊知郎・東畑精一と共訳) 岩波書店, 1977年.

D. モグリッジ『ケインズ』東洋経済新報社, 1979年.

J. M. ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社, 1983年.

### IV 受賞

1985年11月 日経・経済図書文化賞受賞(著書『価値理念の構造—効用対権利』に対して)

1989年11月 日経・経済図書文化賞受賞(共著『長期経済統計』第7巻および第8巻に対して)

1991年6月 日本学士院賞受賞(著書『価値理念の構造—効用対権利』に対して)

### V 論文(日本語)

「所得分析における分配論的接近」『一橋研究』1955年2月.

「所得循環と市場構造—カレツキー体系の一解釈」『季刊理論経済学』1956年4月.

「資本蓄積に関するヴィクセル効果とリカード効果」『一橋論叢』1956年12月.

「財政政策的計画モデル—カルドアを中心として」山田雄三・久武雅夫編『社会的評価の研究』日本評論社, 1957年5月.

「収増と外部経済に関する覚書」『季刊理論経済学』1957年6月.

「長期経済計画におけるインテンションとエクスペクテーション」山田雄三・久武雅夫編『経済計画と予測』日本評論社, 1957年6月.

「雇用政策について」山田雄三・久武雅夫編『日本の経済計画』日本評論社, 1957年8月.

- 「経済計画における投資配分と貯蓄率」一橋大学研究年報『経済学研究』3, 1959年3月.
- 「産業構造の策定基準」篠原三代平編『産業構造』春秋社, 1959年7月.
- 「不均衡成長の理論」『通商産業研究』1960年1月.
- 「ヒックス・価値と資本」『経済セミナー』1960年5月.
- 「計画と実績との比較—変動とギャップ」山田雄三・久武雅夫編『経済計画』春秋社, 1960年7月.
- 「下村理論と産出係数・設備投資比率」『経済評論』1960年12月.
- 「下村治・成長政策の基本問題へのコメント」『季刊理論経済学』1961年3月.
- 「わが国長期経済計画の問題点」日本経済政策学会編『現代日本経済における国家の役割』1961年3月.
- 「アーサー・セシル・ピグー」『一橋論叢』1961年4月.
- 「成長産業と重化学工業化」中山伊知郎編『資本蓄積と金融構造』東洋経済新報社, 1961年4月.
- 「産業構造—成長との関連性」『経済セミナー』1961年6月.
- 「フィリピンの経済循環」『金融ジャーナル』1961年6月.
- 「経済計画」中山伊知郎編『統計学大辞典』東洋経済新報社, 1962年.
- 「フィリピン経済開発の問題点」馬場啓之助編『フィリピンの経済開発』アジア経済研究所, 1962年3月.
- 「経済発展と産業構造」日本産業構造研究所『調査年報』5, 1964年3月.
- 「わが国工業化の二部門パターン」『一橋論叢』1964年11月.
- 「工業化の二部門パターン—アメリカおよびスウェーデンの分析」一橋大学研究年報『経済学研究』9, 1965年3月.
- 「産業構造の国際比較」小泉明・篠原三代平編『日本の産業』日本経済大系II, 青林書院新社, 1965年2月.
- 「工業化の二部門パターン—ホフマン法則の批判」山田雄三・塩野谷祐一・今井賢一編『経済成長と産業構造』春秋社, 1965年10月.
- 「成長パターンの産業連関分析」『経済研究』1965年10月.
- 「工業化パターンの産業連関分析」『一橋論叢』1966年1月.
- 「産業発展形態論」宮沢健一編『産業構造分析入門』有斐閣, 1966年5月.

- 「中央政府活動の構造分析」江見康一・塩野谷祐一『財政支出』（長期経済統計第7巻）東洋経済新報社，1966年9月。
- 「日本の工業化と外国貿易」『一橋論叢』1966年11月。
- 「日本の工業生産指数，1874-1940年」篠原三代平『産業構造論』別冊，筑摩書房，1966年11月。
- 「工業品価格の長期分析」一橋大学研究年報『経済学研究』11，1967年3月。
- 「工業発展の形態」篠原三代平・藤野正三郎編『日本の経済成長』日本経済新聞社，1967年4月。
- 「工業製品物価指数」大川一司他『物価』（長期経済統計第8巻）東洋経済新報社，1967年9月。
- 「日本のコスト・インフレ論の再吟味」『統計年鑑』1968年5月。
- 「産業構造の国際比較」内田忠夫他編『産業連関分析』有斐閣，1968年9月。
- 「交易条件の構造」『一橋論叢』1968年11月。
- 「貿易と国内市場」中山伊知郎・篠原三代平編『日本の工業化』潮出版社，1969年4月。
- 「インド第4次五カ年計画の分析」一橋大学研究年報『経済学研究』15，1971年3月。
- 「混合経済における経済計画の論理」『一橋論叢』1971年4月。
- 「インフレーションとマクロ的所得分配」篠原三代平編『現代インフレーションとの対決』世界政党研究会，1972年6月。
- 「公害と経済体制」『一橋論叢』1971年7月。
- 「消費者主権と経済体制」『経済評論』1971年10月。
- 「公共経済学と国家の理論」『季刊現代経済』1971年12月。
- 「経済成長の数量的研究」『季刊現代経済』1973年3月。
- 「工業成長と外国貿易」（山沢逸平と共同）大川一司・速水佑次郎編『日本経済の長期分析』日本経済新聞社，1973年5月。
- 「汚染者負担原則について」『一橋論叢』1973年11月。
- 「所得政策の理論的検討」新開陽一・新飯田宏編『インフレーション』（リーディングス・日本経済論），日本経済新聞社，1974年1月。
- 「福祉と民主主義の理論」『季刊社会保障研究』1974年1月。

「社会的公正の理論・ノート」(1)～(20)『地域開発ニュース』1974年11月～1978年5月.

「インフレーションと新産業国家・福祉国家」宮沢健一編『超インフレ時代』学陽書房, 1975年2月.

「インデクセーションをめぐる問題点」『一橋論叢』1975年4月.

「工業品需要の構造分析」大川一司・南亮進編『近代日本の経済成長』東洋経済新報社, 1975年4月.

「イギリス労働党政権の物価政策」「フランス契約による自由価格制度」「フィンランドインデクセーションから所得政策へ」荒憲治郎編『インフレーションと物価政策』日本経済新聞社, 1976年3月.

「インフレーションと貯蓄対策」『貯蓄・貨幣の基礎理論』貯蓄増強委員会, 1976年8月.

「アメリカの経済計画論争」(上・下)『通産ジャーナル』1976年8月, 9月.

「現代のインフレーション」熊谷尚夫編『経済思想と現代の世界』日本経済新聞社, 1976年10月.

「道徳哲学の方法」『一橋論叢』1978年1月.

「現代資本主義の社会哲学」塩野谷祐一編『経済体制論・第III巻・現代資本主義』東洋経済新報社, 1978年11月.

「占領期経済政策論の類型」荒憲治郎他編『戦後経済政策論の争点』勁草書房, 1980年4月.

「工業化パターン」『経済学大辞典』II, 東洋経済新報社, 1980年4月.

「政策基準としての効率と公正」日本経済政策学会編『効率と公正の経済政策』勁草書房, 1980年5月.

「物価」大蔵省財政史室編『昭和財政史一終戦から講和まで』第10巻(国庫制度・国庫収支・物価・国家公務員給与・預金部資金・資金運用部資金), 東洋経済新報社, 1980年5月.

「価値理念の方法論」一橋大学研究年報『経済学研究』23, 1981年8月.

「ロールズの社会契約論の構造」一橋大学研究年報『人文科学研究』21, 1981年11月.

「ミルの功利主義の構造」『一橋論叢』1981年11月.

- 「モラル・サイエンスとしての経済学」『経済セミナー』1982年5月。
- 「価値研究の方法と問題」『一橋論叢』1982年6月。
- 「シジウィックの功利主義の構造」一橋大学研究年報『経済学研究』24, 1983年1月。
- 「ケインズの道徳哲学—『若き日の信条』の研究」『季刊現代経済』52, 1983年3月。
- 「資本主義文明の衰退と社会主義」『別冊経済セミナー』（シュンペーター再発見）, 1983年3月。
- 「シュンペーターにおける科学とイデオロギー」『三田学会雑誌』1984年2月。
- 「シュンペーターの問題と方法—方法序説」一橋大学研究年報『経済学研究』25, 1984年3月。
- 「効用対権利—規範的経済学の哲学的基礎」『理想』1985年4月。
- 「ケインズ政策と賃金決定制度」日本経済政策学会編『地域開発と経済政策』1985年5月。
- 「反論・『一般理論』通説は誤りか—ケインズの労働需給関数について」『経済セミナー』1985年6月。
- 「シュンペーター」日本経済新聞社編『現代経済学ガイド—人と理論のプロフィール』日本経済新聞社, 1985年11月。
- 「ケインズ理論と因果性」『経済セミナー』1986年1月。
- 「シュンペーターと純粋経済学」一橋大学研究年報『経済学研究』27, 1986年2月。
- 「経済思想としての『一般理論』」日本大学経済学研究会『経済集志』1986年10月。
- 「経済哲学の現在—左右田・杉村とそれ以後」『一橋論叢』1987年7月。
- 「シュンペーターの経済思想」(1)～(6), 簡保資金研究会『かんぼ資金』1988年2月～7月。
- 「杉村広蔵とシュンペーター」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』8, 1988年3月。
- 「シュンペーター・シュモラー・ウェーバー—歴史認識の方法論」『一橋論叢』1988年12月。
- 「シュンペーターの「アンナの日記」」一橋大学社会科学古典資料センター, スタディーズ・シリーズ21, 1990年3月。

「グスタフ・フォン・シュモラー—ドイツ歴史派経済学の現代性」『一橋論叢』1990年4月。

「経済学における価値理念の構造—効用対権利」日本学術振興会『学術月報』1992年1月。

「競争の倫理」『ビジネス・レビュー』1992年2月。

「シジウィック・ムア・ケインズ—ケインズの『若き日の信条』の哲学的分析」大石泰彦・福岡正夫編『経済理論と計量分析』早稲田大学出版部, 1992年3月。

「大学の理念と国立大学のレゾンデートル—大学の四次元モデル」有馬朗人・太田時男・塩野谷祐一編『国立大学ルネサンス—生まれ変わる「知」の拠点』1・2, 同文書院, 1993年3月。

「競争の倫理」加藤寛孝編『自由経済と倫理』成文堂, 1995年3月。

「経済と倫理」『経済学史学会年報』第33号, 1995年10月。

「ノーマライゼーションとケアの倫理学」『都市問題研究』1996年4月。

## VI 論文 (外国語)

“Patterns of Industrial Growth in the United States and Sweden: A Critique of Hoffmann’s Hypothesis,” *Hitotsubashi Journal of Economics*, June 1964.

“Arthur Cecil Pigou, 1877–1959,” *Hitotsubashi Journal of Economics*, June 1965.

“Patterns of Industrial Development,” in L. Klein & K. Ohkawa (eds.), *Economic Growth: The Japanese Experience since the Meiji Era*, Illinois: Richard D. Irwin, 1968.

“Growth of Industrial Economies: Reply to Professor Hoffmann,” *Hitotsubashi Journal of Economics*, June 1970.

“Toward the Logic of Indicative Planning in Mixed Economies,” Japan Economic Research Center, *Economic Planning and Macroeconomic Policy*, Vol. 1, Tokyo, 1971.

“Industrial Growth and Foreign Trade in Prewar Japan,” (with I. Yamazawa), in K. Ohkawa & Y. Hayami (eds.), *Papers and Proceedings of the Conference on Japanese Experience and the Contemporary Developing Countries; Issues for Comparative Analysis*, International Development Center of

- Japan, Tokyo, 1973.
- "Current Inflation in Japan : A Long Neglected Policy Objective," in *Japan-U. S. Assembly*, Proceedings of a Conference on Japan-U. S. Economic Policy, American Enterprise Institute for Public Policy Research, Washington, D. C., 1975.
- "Patterns of Economic Policy in Occupied Japan, 1945-52," in G. Daniels (ed.), *Europe Interprets Japan*, Kent : Paul Norbury, 1984.
- "The Science and Ideology of Schumpeter," *Rivista Internazionale di Scienze Economiche e Commerciali*, August 1986.
- "Wide Reflective Equilibrium and the Theory of Rights," *Kyoto American Studies Summer Seminar Specialist Conference*, Kyoto, 1987.
- "The Schumpeters Family in Trest," *Hitotsubashi Journal of Economics*, December 1989.
- "Schmollers Forschungsprogramm : Eine methodologische Würdigung," in J. G. Backhaus, Y. Shionoya, und B. Schefold, *Gustav Schmollers Lebenswerk : Eine kritische Analyse aus moderner Sicht*, Düsseldorf : Verlag Wirtschaft und Finanzen, 1989.
- "Instrumentalism in Schumpeter's Economic Methodology," *History of Political Economy*, Summer 1990.
- "The Origin of the Schumpeterian Research Program : A Chapter Omitted from Schumpeter's *Theory of Economic Development*," *Journal of Institutional and Theoretical Economics*, June 1990.
- "Schumpeterova rodina v Trestì," *Politická Ekonomie*, November 1990.
- "Die Familie Schumpeter in Trest," in H. Hanusch, A. Heertje, und Y. Shionoya, *Schumpeter—der Ökonom des 20. Jahrhunderts*, Düsseldorf : Verlag Wirtschaft und Finanzen, 1991.
- "Schumpeter on Schmoller and Weber : A Methodology of Economic Sociology," *History of Political Economy*, Summer 1991.
- "Sidgwick, Moore and Keynes : A Philosophical Analysis of Keynes's *My Early Beliefs*," in B. W. Bateman and J. B. Davis (eds.), *Keynes and Philoso-*



*phy: Essays on the Origin of Keynes's Thought*, Aldershot: Edward Elgar, 1991.

"Taking Schumpeter's Methodology Seriously," in F. M. Scherer and M. Perlman (eds.), *Entrepreneurship, Technological Innovation, and Economic Growth: Studies in the Schumpeterian Tradition*, Ann Arbor: University of Michigan Press, 1992.

"Max Webers soziologische Sicht der Wirtschaft," in K. H. Kaufhold, G. Roth, und Y. Shionoya, *Max Weber und seine >Protestantische Ethik<*, Düsseldorf: Verlag Wirtschaft und Finanzen, 1992.

"A Non-Utilitarian Interpretation of Pigou's Welfare Economics," in P. Koslowski and Y. Shionoya (eds.), *The Good and the Economical*, Berlin: Springer-Verlag, 1993.

"The Ethics of Competition," *European Journal of Law and Economics*, March 1995.

"A Methodological Appraisal of Schmoller's Research Program," in P. Koslowski (ed.), *The Theory of Ethical Economy in the Historical School*, Berlin: Springer-Verlag, 1995.

"Getting Back Max Weber from Sociology to Economics," in H. Rieter (ed.), *Studien zur Entwicklung der ökonomischen Theorie XV: Wege und Ziele der Forschung*, Berlin: Duncker & Humblot, 1996.

"The Sociology of Science and Schumpeter's Ideology," in L. S. Moss (ed.), *Joseph A. Schumpeter, Historian of Economics*, London: Routledge, 1996.